

職業奉仕を実践している人です。おもいやりがなければそんなことはできません。他人のことを考えてその人があとで困らないようにするには、手を抜くこともできません。手を抜くことは、倫理性にかけた行為になります。最近のマスコミを販わしていた食品偽装事件でも、外見は同じような商品であるのに中味は違うものを入れているというのが倫理性に欠いているのと同じ論理です。刀鍛冶師が手を抜けば、外見は同じような刀ができるかも知れませんが、それは中味が違います。それは、倫理性に欠けた職業の遂行の結果であります。職業奉仕を実践するには、高い倫理性が必要であり、思いやりが必要な所以であります。ロータリーの職業奉仕の基本概念は、これ丈のことであります。ロータリーでは、他の奉仕部門にもこの職業奉仕のフィルターをかけて奉仕の実践をしています。クラブ奉仕然り、社会奉仕然り、又、国際奉仕然りであります。これの理論的根拠は、ロータリーの綱領の本文に記載があります。曰く「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある。」と。

ところで、ロータリーでは、職業奉仕のことを vocational service と呼んでおります。綱領では「あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること」と記載がされています。有用な業務には、貴賤がないという認識を深めることが必要であるということです。従って、同じ金融業者でも、高利貸といわれる人の職業は有用とはいえませんが、高利貸という職業はあるとしても、ロータリーでいう職業奉仕の対象となる職業とはいえませんが。一定の道徳的水準（倫理的水準）があり、有用な職業こそ天職（vocation）と呼ぶにふさわしいものでありましょう。天職というと神が人間に与えたものというニュアンスが強く感じられますが、人間は一人で生まれてきたものではないし、一人で生きられるものでもないことから考えると、天職という言葉は社会秩序の中にあって本来そうあって然るべき職業の姿をつかまえていった言葉だと思えます。職業自体が一番よくその職業を知っているということになります。そうすると自分の職業がわからなくなったときには、その職業に問い糺すことによって、その職業を天職にまで引き上げることが出来るものと考えられます。

米山基金の更なる充実を

10月はまた、米山月間と指定されています。米山の正式名称は、財団法人ロータリー米山記念奨学会であります。米山の前にロータリーと冠せられていることに注意を払って下さい。ロータリー米山記念奨学会は、日本独自のものではありますが、頭にロータリーが冠せ

られているということは、国際ロータリーも多地区合同奉事業として、認知した財団であることを意味しています。

この財団は、米山梅吉氏の遺徳を偲んでその所属クラブであった東京ロータリークラブが1952年に基金240万円をもって設立した米山基金を嚆矢とします。しかしこの基金は、3人の留学生に奨学金が支給された段階で資金が枯渇して解消してしまいました。しかし、米山基金を設立した人達の志は高く、地区事業から多地区事業へとその姿を変え、1962年には、第365地区（現2650地区）を含む全国的組織となり、1967年7月には、文部省を主務官庁とする財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。その後、事業は順調に伸び、これまでに約1万3000人の留学生を支援するまでになり、国内での民間組織としては、最大の奨学金支給機関にまで成長しました。しかし、1996年の20億円をピークに、ロータリアンの会員減少と軌を一にするようにして、財団への寄付額は減少し、現在は一応下げ止まった状態が続いています。その間、2005年からは、それまで毎年1000名の採用枠を有していましたが、これを毎年800名の採用枠に減らし、同時に支給金額も若干減額となりました。それでも、財団の留学生に対する支援熱は下がることなく、3年位前からはそれまでは指定校から外されていた短期大学・高等専門学校・専修学校専門課程、準備教育課程にまで指定校を広げ更に2006年度には日本に留学できない国々の学生のために、現地採用型奨学生の採用方法も決まり、2006年にはベトナムへ日本の試験官が渡り10名の候補者を選考試験し、更に今年に入って再び試験官を派遣し、そのうち特に優秀な2名を最終合格者とし、現在日本でこの2名のベトナム人学生が米山奨学生として留学生活を送っています。

このような財団の熱意に応えるためには、米山奨学金への寄付の増額がのぞまれておりますが、今年度の地区の募金目標は、ロータリアン一人につき昨年度同様の2万4000円/年と致しました。昨年度と同額にした理由は、昨年度も目標達成ができなかったからです。年間2万4000円といいますが月額2000円あります。タバコを吸っている人は、少しその量を減らしていただければ、これ位の金額は浮いてきます。タバコを吸っていない人は、タバコを吸っている人に比べて、それだけ支出が少ないのでありますから、矢張りこれ位の協力をお願いしてもそう無茶なものとも思えません。いずれにしても他地区では、これ以上の寄附金を集めているところもあり、1人2万4000円/年は、決して達成不可能な数字であるとは考えておりませんので、ご協力の程どうかよろしくお願い申し上げます。